

# 山の神・オオヤマツミ

## 【日本神話】 天孫降臨

至高神タカミムスビの命をうけたアマテラスは、孫であるニニギを地上に送ります。ニニギは、山の神オオヤマツミから娘のイワナガヒメ（姉）とコノハナサクヤヒメ（妹）を与えられますが、美しい妹のみを娶り、みにくい姉を送り返してしまいます。イワ（岩）の永遠性を捨て、やがて散るハナ（花）を選んだ瞬間から、人には寿命が与えられることになりました。

やがてコノハナサクヤヒメは懐妊しますが、ニニギは早すぎる妊娠を他の神の子ではないかと疑います。ニニギの子であることを証明するため、コノハナサクヤヒメはみずから産屋に火をつけ、燃えさかる炎のなかで、ホデリ（海幸彦）、ホスセリ、ホオリ（山幸彦＝ヒコホホデミ）を無事出産しました。山幸彦は、海の女神豊玉姫と結ばれて子神ウガヤフキアエズが誕生します。

## 【対馬の伝承・異伝】

対馬は島の面積の89%を森林に覆われた山岳島ですが、オオヤマツミを祭る神社は意外と少なく、対馬の山岳信仰の総社とされた白嶽、厳原町曲の山住神社などです。どちらも、スサノオ・イソタケルといった伐採のタブーや植樹に関する神をあわせて祭っています。

## コラム 山岳信仰と磐座（いわくら）

対馬の古い神社の多くは、神籬磐境（ひもろぎいわさか）式と呼ばれる、神山などを聖地とし、社殿を設けない形式です。信仰対象は神聖不可侵のため、近づくことも禁忌（タブー）であり、遠くから拜むために神社を建てる、というのが対馬の神社の基本形ですが、これは、日本最古の神社のひとつとされる奈良の大神（おおみわ）神社などと共通する古神道の原型でもあります。

そのほか、古い信仰の形態として知られているものとしては、「磐座」があります。神が降臨する巨石ですが、霊峰・白嶽は、白い岩盤が露出する山頂部そのものが巨大な磐座とも考えられます。神社（建物）だけを参拝するのではなく、その先にある本来の信仰対象や自然環境・歴史に想いを馳せると、対馬の神社めぐりがより楽しく、充実したものになります。

### 〈 神山の例 〉

御岳、白嶽、龍良山など

### 〈 磐座の例 〉

豊玉姫の墳墓（和多都美神社（63）の裏参道）、與良祖神社（6）の奥の院など